



さとやま 2026年 冬号 (通巻173号)

■発行 特定非営利活動法人うしく里山の会
〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
tel 029-873-8552 fax029-873-8552

■事務局 牛久自然観察の森内
tel 029-874-6600
<http://ushiku-satoyama.org>
■編集 木谷昌史



さとやま

～冬号～
No.173

特定非営利活動法人うしく里山の会 広報誌

1. 表紙 (コカマキリの卵囊)
2. お知らせ
- 2-5 プロジェクト活動報告
6. 裏表紙 (里山保全活動の一コマ)

事務局からのお知らせ

牛久自然観察の森・結東町みどりの保全区 「エコアップ」作戦参加者募集のお知らせ

牛久自然観察の森及び隣接する牛久市結東町の「みどりの保全区」で行っている森林維持管理作業「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行っています。11～1月の活動では、雑木林の林床の下草刈りと落ち葉かきを行いました。毎年活動している場所の下草刈りが一巡し整然とした林床景観が戻り気持ち

のよい作業となりました。活動地では親子向け自然体験イベントの開催地としても活用され活動の充実を感じました。

2～3月は下記の通り2回の実施を予定しております。雑木林、杉林の景観維持へのご協力を引き続き宜しくお願いいたします。

活動日：2月26日（木）、3月27日（木）

時間：9時30分～12時

集合場所：ネイチャーセンター 横の倉庫前

参加希望の方は：活動日の1週間前までに事務局までご連絡ください。

活動の様子



作業の準備をする様子



下草刈りと落ち葉かきを行う

プロジェクトからの報告

牛久自然観察の森指定管理者 全国観察の森運営協議会出席報告

11月6日、7日 和歌山自然観察の森（四季の郷公園）にて全国自然観察の森運営協議会が開催され出席したのでその報告をしたいと思います。

この全国観察の森運営協議会は全国に10ヵ所ある観察の森が設立されてからほぼ毎年開催されていて今年で29回目を迎えます。運営協議会では各施設の特色を生かした取り組みや課題などを持ち寄り各議題に沿って発表し情報共有を図ります。また観察の森の設立を推進した環境省（旧環境庁）からは時々の自然行政の動きなどの話もあります。国、県を含めて自然体験や環境教育の普及啓発を行う施設は数が少なく、貴重な情報交換の場になります。運営協議会は概ね2日間開催され、1日目は会議、2日目に現地にて行い園内の植生やサイン標識、ネイチャーセンターでの展示物などの視察を行う

木谷 昌史

ことが多く、植生の管理方法や園内の活用の事例も学びます。会議の合間の休憩時間はスタッフ同士での意見交換が積極的に図られ、今年は猛暑の中で行う夏のイベントや外来種の対策、希少動植物の盗掘などの被害状況やその対策など管理運営についての質問が飛び交う有意義な時間となりました。



野草を紹介するパネル展示



オオスズメバチ



クロツヤミノガ



チュウゴクアミガサハゴロモの卵



マイマイガの卵



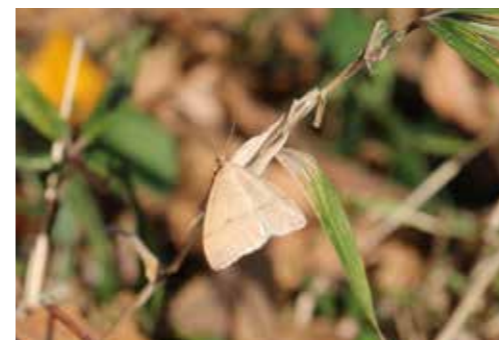
ヤニサシガメ



ツヤアオカメムシ



クロチャバネゴキブリ



クロスジフユエダシヤク



ホソミオツネントンボ
コナラの枯れ枝に止まり枝に擬態している

越冬する昆虫達



コカマキリの卵囊
クヌギの樹皮の隙間を利用して産み付けられていた。



オオカマキリの卵囊



ハラビロカマキリの卵囊



ウスタビガの繭



ウラギンシジミ



イラガの繭



オオムラサキの幼虫



ゴマダラチョウの幼虫



クワコの繭

2025年も異常気象が続く年で有りました。梅雨入りが早く、明けも早く、すぐに猛暑が続きました。季節の二極化すすんでいるのか？秋も短く、我が家の紅葉も12月に入った頃、やっと紅葉と同時に落葉が始まった。我ら応援隊も冬の作業が始まりです。

◇[11月第1週] 梅林横「緑の保全区」の枯れ木処理

桧木が2本枯れ、先端が隣の木に寄り掛かり、風で今にも倒れそうなので、伐倒処理をしました。同時に久しぶりの伐採作業で、道具類の取り扱い方法の確認と点検を実施。倒した木は玉切り処理して炭屋横に搬出して作業は終了。

◇[11月第3週] 竹炭焼き

9月第3週に焼いた炭出しと、新たな炭材詰めと同時に炭窯の天井の補修。前回の炭焼きで、窯口近くの天井が抜け20センチ四方の穴が開き外からアルミ板で塞ぎ、その上から泥粘土で塞いで炭焼きを完了しました。今回は、この穴の補修です。しかし、本格的な補修は、被せたアルミ板を外して、窯内部に支えを作り、外から泥粘土を隙間に流し塞ぐのが良い方法。だが修理時間が掛かるので、今回は外側のアルミ板の上に、泥粘土を厚めと広めに塗固めて、炭焼きを実施。翌日夕方完全に火を落として今回の炭焼きは終了。後日の点検で、炭窯の天井は無事で異常は見られなかった。今から30年前(1995/12)に炭窯を作り、窯口・煙突口・天井抜け等異常が発生しその都度、補修/点検を施し現在に至っています。

◇[12月第1週] の作業は、「ムジナの里」で炭材切り

1月第1週の炭焼き用の竹を切り出し。運搬できるサイズに切り揃え、穂先や先の細い竹は粉碎機でチップ化。そして、竹林にまいて自然に返す。炭材は運搬して、梅林奥の炭屋横に運び作業は終了。

◇[12月第3週] の作業は、炭出しと詰込み

年明けの第1週に火入れ式をして2026年最初の炭焼きが始まります。その事前準備として、前回焼いた炭を出し、

前回焼いた炭は綺麗に焼き上がりました。その他の作業として、新年に向け、しめ縄用の藁を入手したので、炭窯に飾る牛蒡注連(ごぼうじめ)を作りました。他、炭屋の廻りの清掃や整理をして、手作りの牛蒡注連を炭屋に飾り2025年の締めくくりをして、来年度も健康に、楽しく、安全に作業が出来ますよう祈りつつ、今年の作業は終了しました。



空いた穴



修繕前



修繕後の炭窯の様子